

鎌ケ谷の文化財

鎌ケ谷市教育委員会

①下総小金中野牧跡(補込)(国史跡) 円 東中沢2-1

江戸幕府は、軍馬を確保するため下総地方に小金牧・佐倉牧を設置した。市域の台地上は小金牧のうちの中野牧に属した。牧内には馬を管理する施設として「補込」や「野馬土手」などが造られ、小金牧全体で最盛期には1,000頭もの野馬が野放し飼いにされていた。補込は、野馬を追い込み捕らえて、軍馬として養成する馬と払い下げする馬とにより分け、3区画からなる施設であった。野馬を捕込へと追い込む「野馬捕り」は、牧を管理する「牧士」の指揮により、周辺の村から集められた農民(勞子)が行った。その様子も、勇壮であったようである。江戸時代の旅行ガイドブックにある「成田名所図会」では、隣の「下野牧の野馬捕り」が紹介され、江戸からも多く見物客が集まっていたとされている。なお、野馬の払い下げ金は少ないながら、幕府の安定した収入であった。江戸幕府の軍馬生産を知る上で重要であり、かつ小金牧として唯一現存する補込として貴重であるため、平成19年2月6日、国史跡に指定された。



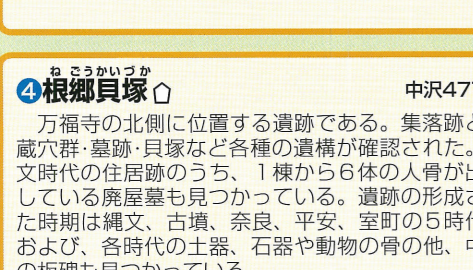
②中沢貝塚(国史跡) 東中沢2-10他

貝塚公園西側の台地上にある直径約130mの馬蹄形貝塚で市内では最大、県内でも規模・内容とも多数の貝塚である。これまでに多数の住居跡と大量の土器、石器とともに土偶、石棒をはじめとする特殊な遺物も数多く出土している。貝塚からは動物の骨も多数発見されており、狩りや海資源の採取が行われていたことがわかる。遺跡が形成されたのは、縄文時代後期(4千~3千年前)を中心に中~後期(約5千~2千3百年前)と推測される。



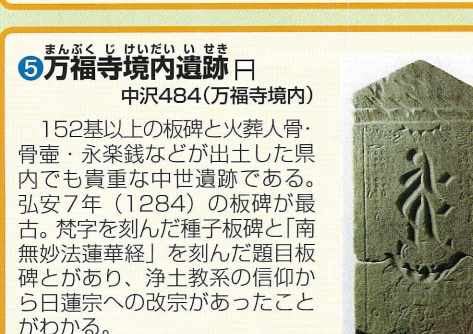
③大塚込遺跡(国史跡) 中沢1123他

市立第四中学校を囲むように広がる遺跡。根郷貝塚北側の台地上に形成された集落跡で住居跡や高床式建物跡、貯蔵穴などが確認された。縄文式土器、土師器、須恵器なども発見されている。縄文、古墳、奈良・平安の各時代にわたる複合遺跡である。縄文時代中期の土偶も発見されている。



④根郷貝塚(国史跡) 中沢477他

万福寺の北側に位置する遺跡である。集落跡と貯蔵穴群・竈跡・貝塚など各種の遺構が確認された。縄文時代の住居跡のうち、1棟から6体の人骨が出土している。また、土師器の土器も出土している。遺跡の形成された時期は縄文、古墳、奈良、平安、室町の5時代におよび、各時代の土器、石器や動物の骨の他、中世の板碑も見つかっている。



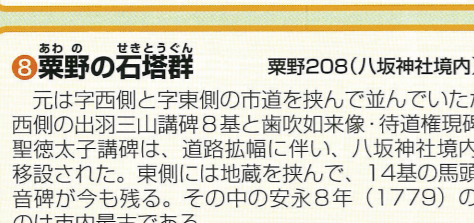
⑤万福寺境内遺跡(国史跡) 中沢484(万福寺境内)

152基以上の板碑と火葬人骨・骨壺・永楽銭などが出土した県内でも貴重な中世遺跡である。弘安7年(1284)の板碑が最古。梵字を刻んだ種子板碑と「南無妙法蓮華経」を刻んだ題目板碑とがあり、浄土教の信仰から日蓮宗への改宗があったことがわかる。



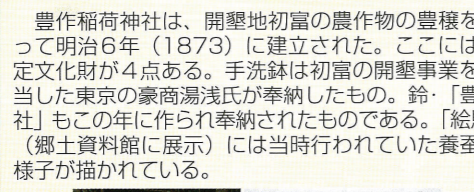
⑥粟野庚申講・粟野庚申塔群(市指文) 円 粟野208(八坂神社境内)

粟野は江戸時代前期から現代まで庚申講が続いている市内で唯一の地区である。造立された庚申塔の中では元禄12年(1699)が最も古い。安政2年(1855)以降は5年ごと規則正しく現在まで建てられている。



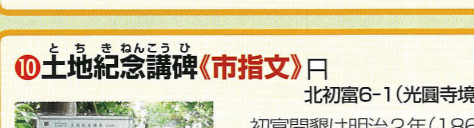
⑧粟野の石塔群 粟野208(八坂神社境内)他

元は字西側と字東側の市道を挟んで並んでいたが、西側の出羽三山講碑8基と南谷吹如来像・待遊権現碑・聖徳太子講碑は、道路拡幅に伴い、八坂神社境内へ移設された。東側には地藏を換えて、14基の馬頭観音碑が今も残る。その中の安永8年(1779)のものには市内最古である。



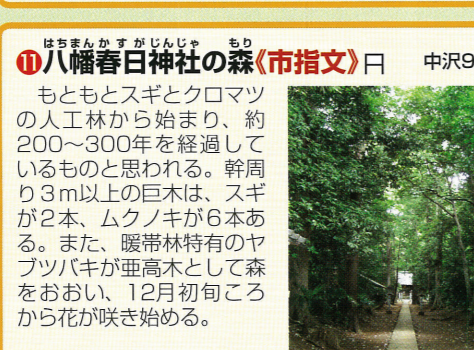
⑨手洗鉢・額「絵馬」・鈴「額」「豊作社」(市指文) 円 初富221-1(豊作稲荷神社境内)

豊作稲荷神社は、開墾地初富の農作物の豊穡を願って明治6年(1873)に建立された。ここには指定文化財が4点ある。手洗鉢は初富の開墾事業を担当した東京の家納清海氏が奉納したもの。鈴「豊作社」もこの年に作られ奉納されたものである。「絵馬」(郷土資料館に展示)には当時行われていた養蚕の様子が描かれている。



⑩土地記念講碑(市指文) 円 北初富6-1(光園寺境内)

初富開墾は明治2年(1869)から始まった。しかし、作物の不作が重なったため、多数の難民が出たり、開墾会社との間で土地騒動が起こるなど困難をきわめたものであった。その後、苦しんでいた中、その子孫が祖先へのしるしを、励みとて土地記念講碑を立てた。この講碑は開墾50周年を記念して、大正7年(1918)に光園寺境内に建てられたものである。



⑪八幡春日神社の森(市指文) 円 中沢907

もともとスキとクロマトツの人工林から始まり、約200~300年を経過しているものと思われる。幹周り3m以上の巨木は、スキが2本、ムクノキが6本ある。また、暖帯林特有のヤブツバキが亜高木として森をおおい、12月初旬ころから花が咲き始める。



⑫三橋家墓(市指文) 円 中沢646

三橋家は、江戸時代に小金中野・下野牧の牧士役をつとめた家柄である。この墓地には享保8年(1723)に亡くなった五郎兵衛から、昭和の初めに貴族院議員として活躍した三橋彌次で10代にわたる墓石がある。



⑬総牧開墾局知事北島秀朝寺旅宿看板(市指文) 正方形 中央1-8-31(郷土資料館)

下総牧の開墾事業が始まる直前の明治2年(1869)、東京府開墾局知事北島秀朝ら開墾局の役人たちが、当時粟野村の名主をつとめていた浜谷家に借泊し、開墾予定地を視察した。そして豊か土地になるようにとの願いを込めて「初富」と命名・宣言したことを裏付ける資料である。



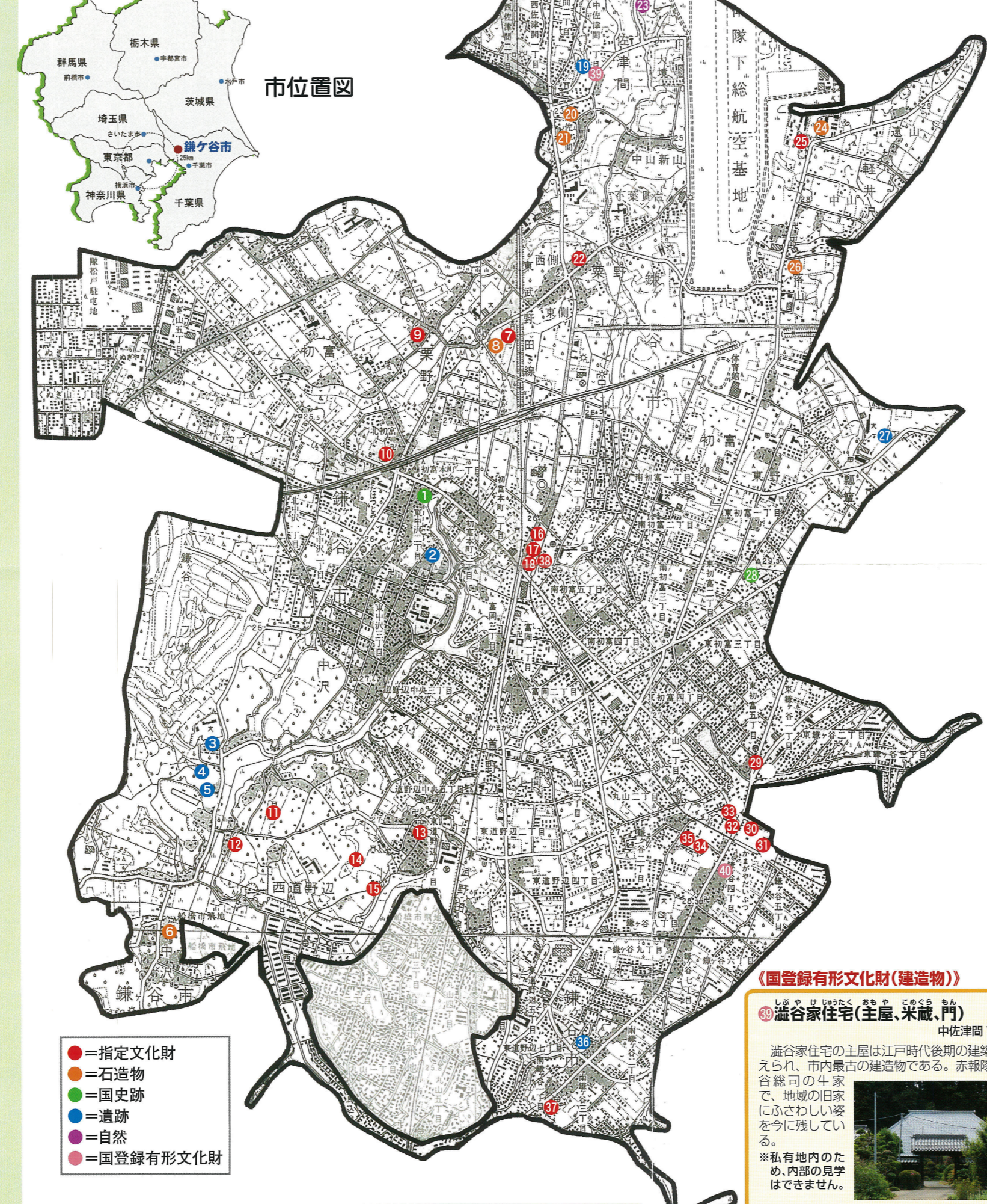
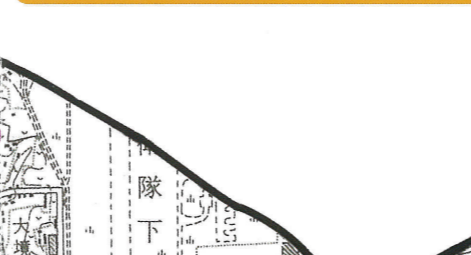
⑭北方前板碑(市指文) 円 中央1-8-31(教育委員会寄託資料)

板碑は石製の供養塔で、埼玉県北西部で採掘された緑泥片岩を用いた武蔵型板碑が多い。北方前板碑は天徳3年(1331)を最古に35基の板碑がある。すべて阿弥陀如来を表す梵字(キリーク)を刻んだ種子板碑である。当時浄土教系信仰が盛んであったことがわかる。



⑮佐津間城跡 中佐津間1-9

大津川に臨む台地上に築かれている土塁と空堀をめぐらせて周囲を台地から遮断した単郭構造の城郭である。四方に突き出した櫓台と櫓状構造など守備を主体とした構造で、城の入口にあたる虎口が村落側にあり、城と村落が一体であったことも考えられる。築造された時期は戦国時代(16世紀中~後半頃)と推定される。

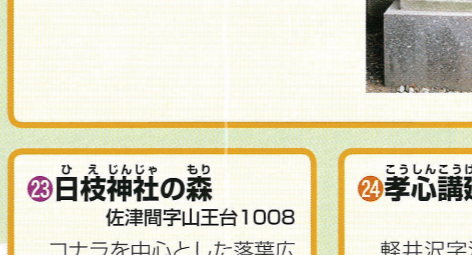


市位置図

- = 指定文化財
- = 石造物
- = 国史跡
- = 遺跡
- = 自然
- = 国登録有形文化財

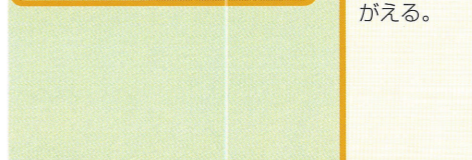
⑯光明真言道標 南佐津間10

24字の光明真言を円形に連ね、中央に大日真言を配している。また、鮮魚街道の道標を兼ねており、正面上に「木おろし」と、右側に「松戸・江戸道」、左側に「粟野・ふなばし道」とある。文久4年(1864)の造立。



⑰白枝神社の森 佐津間字土丘台1008

コナラを中心とした落葉広葉樹林が林全体を占め、下層にはヒサカキが多い。ノダツギが林内に広がる、5月には見事に咲き誇る。



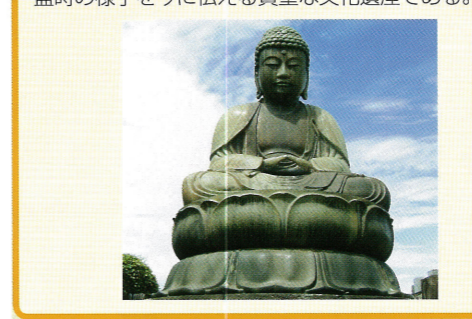
⑱初富開墾関連史料(市指文) 中央1-8-31(郷土資料館)

明治政府は首都の窮民救済と人口削減による治安維持を目的として、明治2年(1869)に小金牧、佐倉牧の開墾事業を始めた。「初富」は、その最初の開墾地である。市内には、「初富」の地名初出史料のほか、開墾前に牧と野村との境界を確定させた際の史料や、土地の所有権を巡る裁判記録など、開墾事業の様子が知れる様々な資料が残っている。



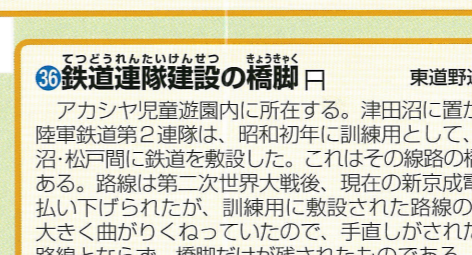
⑲鎌ケ谷大仏(市指文) 円 鎌ケ谷1-5(大仏墓地内)

安永5年(1776)、鎌ケ谷の大国屋文右衛門が祖先の供養のため、江戸神田の鐘物師に鑄造させたものである。銅製の釈迦如来仏で、高さは台座を除き1.8mある。豪勢な開眼供養の様子が伝えられ、鎌ケ谷の盛時の様子を今に伝える貴重な文化遺産である。



⑳丸屋(丸屋、丸屋離れ) 鎌ケ谷4丁目

丸屋は、江戸時代に木下街道沿いにあった鎌ケ谷の旅館で、火事によって消失したため、明治30年頃に再建されているが、宿場の歴史を物語る建造物である。※私有地のため、内部の見学はできません。



㉑鉄道連隊建設の橋脚 円 東道野辺6-9

アカシア児童遊園内に所在する。津田沼に置かれた陸軍鉄道第2大隊は、昭和初年に訓練用として、津田沼-松戸間に鉄道を敷設した。これはその路線の橋脚である。路線は第二次世界大戦後、現在の新京成電鉄に払い下げられたが、訓練用に敷設された路線のため、大きく曲がりにくかったので、手直しされた際に路線とならず、橋脚だけが残されたのである。



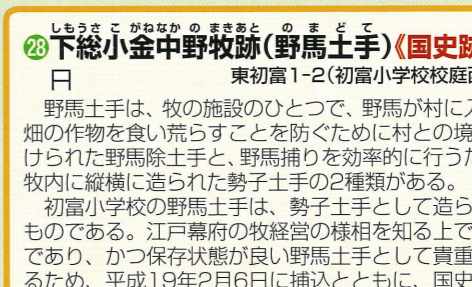
㉒滋谷総司階位顕彰碑 南佐津間9-37(宝泉院境内)

総司は佐津間出身の討幕勤皇の志士である。赤報隊(新政府軍先鋒隊)に参加し、年貢半減を掲げて奥州道を進軍し、活躍した。しかし「偽官軍」の汚名を着せられ、慶応4年(1868)、下野を訪て斬首された。昭和3年(1928)に復権し、この碑が建てられた。



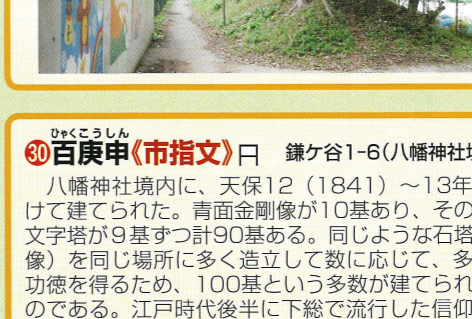
㉔庚申道標 軽井沢2009

軽井沢宇落山の路傍に所在する。青面金剛を表す梵字(ウーン)と家書で青面金剛が刻まれており、文化14年(1817)に造立された銘がある。右側面には「東 志ろ井(白井) 軽井沢」、左側面には「南 かまがや 北 ふじがや」などとあり、鮮魚道(なまみち)の重要な道標でもあったことがうかがえる。



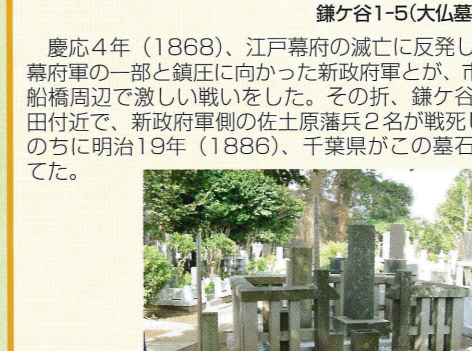
㉕下総小金中野牧跡(野馬土手)(国史跡) 円 東鎌ケ谷1-7

「ひと塚へ 人を吹き込む 枯野かな 魚」との銘文が刻まれている。松尾芭蕉の流れをくむ俳人三級守魚文が、旅の途中で鎌ケ谷を通った時に詠んだ句と想われる。「明和元年(1764)、武陽山高橋氏建立」とある。木下街道の道標も兼ね、「右 木おろし道」「左 中木戸道」と刻まれている。



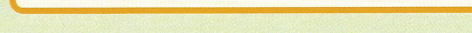
㉖八幡申(市指文) 円 鎌ケ谷1-6(八幡神社境内)

八幡神社境内に、天保12(1841)~13年にかけて建てられた。青面金剛像が10基あり、その間に文字塔が9基ずつ計90基ある。同じような石塔(仏像)を同じ場所に多く造立した数に応じて、多くの功德を得るため、100基という多数が建てられたものである。江戸時代後半に下総で流行した信仰形態である。



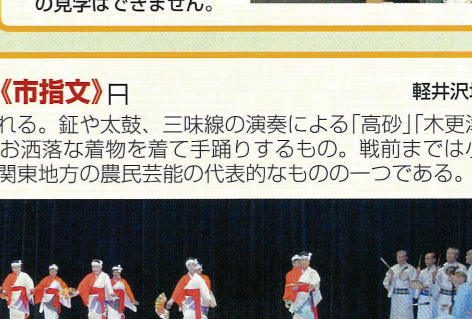
㉗言軍兵士の墓(市指文) 円 鎌ケ谷1-5(大仏墓地内)

慶応4年(1868)、江戸幕府の滅亡に反発した旧幕府軍の一部と鎮圧に向かった新政府軍とが、市川-船橋周辺で激しい戦いをした。その折、鎌ケ谷大新田付近で、新政府軍側の佐土原源兵2名が戦死した。のちに明治19年(1886)、千葉県がこの墓石を建てた。



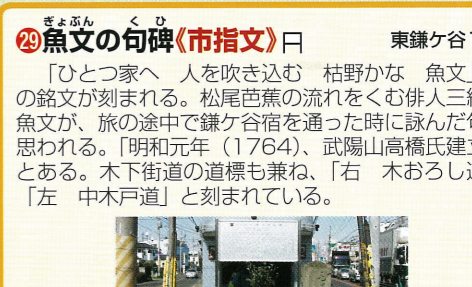
㉘キンモクセイ(市指文) 円 粟野(個人宅内)

キンモクセイは市木として親しまれている。この木は高さ8m、胸高直径約55cmの木で、キンモクセイとしては市内一の木である。毎年10月初旬頃、オレンジ色の小さな花を多数つけて豊かな芳香を放つ。※私有地のため、内部の見学はできません。



㉙おしゃらく踊り(市指文) 円 軽井沢地区

軽井沢地区に伝えられる。鉦や太鼓、三味線の演奏による「高砂」「木更津」などの唄に合わせて、お洒落な着物を着用して踊るもの。戦前までは小念仏踊りとも呼ばれた。関東地方の農民芸能の代表的なもの一つである。



㉚魚文の石碑(市指文) 円 東鎌ケ谷1-7

「ひと塚へ 人を吹き込む 枯野かな 魚」との銘文が刻まれている。松尾芭蕉の流れをくむ俳人三級守魚文が、旅の途中で鎌ケ谷を通った時に詠んだ句と想われる。「明和元年(1764)、武陽山高橋氏建立」とある。木下街道の道標も兼ね、「右 木おろし道」「左 中木戸道」と刻まれている。



㉛駒形大明神(市指文) 円 鎌ケ谷3-3

牧士清田家の三代の駒形は馬術にすぐれ、将軍の御前で見事に俣馬を乗りこなしたといわれる。この馬を乗り、帰村する途中、現在の市川市北方付近に至ると、にわかには馬がたけり狂ったので、切り殺してしまった。後に、その冥福を祈るために作った小祠が、この駒形大明神と伝えられている。



㉜清田家の墓地(市指文) 円 鎌ケ谷3-3

清田家は江戸幕府の命をうけ、小金中野・下野牧の牧士役を13代にわたって世襲した。牧士は野馬の管理を行ない、野馬捕りや将軍の鹿狩りの際には、乗子人定たちを指揮した。また、笛芋辨刀の他、栗馬や鞍籠の所持も許されていた。



※**円**: 説明看板あり **円**: 標柱あり

文化財の情報は市ホームページでも見ることができます。鎌ケ谷市の文化財で検索または <http://www.city.kamagaya.chiba.jp/kakuka/kakuka-kyoikuinukai/bunka/bunkazai.html>